



Weekly Market Report

July 31, 2017

FX, JPY Interest Rate, Topics

1. 為替相場概況

米経済指標でインフレ動向を見極め、利上げの方向感を探る展開

USD/JPY (1週間の値動き)



USDJPY Currency (USD-JPY X-RATE) USDJPY(1W) 5日10分 Copyright© 2017 Bloomberg Finance L.P. 31-Jul-2017 07:10:40

コメント

(出所) Bloomberg

先週のドル円相場は、25日から開催されるFOMCを控え111円を挟んで揉み合う展開でスタート。その後堅調な米株市場や米債利回りの上昇を背景にドル円は112円手前まで上昇。26日のFOMC直前にはFRBのバランスシート縮小を巡る思惑から、一時は週間高値となる112.21円を示現。声明文公表後はインフレ見通しの後退が意識され、ドル買いポジションの巻き戻しにより、110円台後半まで円高が進行。翌27日NY時間には米金利の上昇等を背景に111.70円近辺まで円安が進む場面も見られたが、方向感が定まらず、再び111円前後で揉み合う展開となった。28日NY時間に発表された米GDPが市場予想を下回り、また前回値も下方修正された事もあり、米金利は低下し、ドル円も110.70円付近で越週している。今週は米雇用統計を始め重要な経済指標が相次いで発表される。米インフレ見通しの後退から利上げ観測が一旦後退しているが、米実体経済の動向を見極めつつ、再び利上げの方向感を探る展開となるだろう。(市場営業部/吉岡)

今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
8/1(火)	ユーロ圏GDP (欧州)	0.6%
8/1(火)	ISM製造業指数 (米国)	56.4
8/4(金)	非農業部門雇用者数 (米国)	18.0万人
8/4(金)	失業率 (米国)	4.3%
8/4(金)	平均時給前月比 (米国)	0.3%

USD/JPY (2年間)



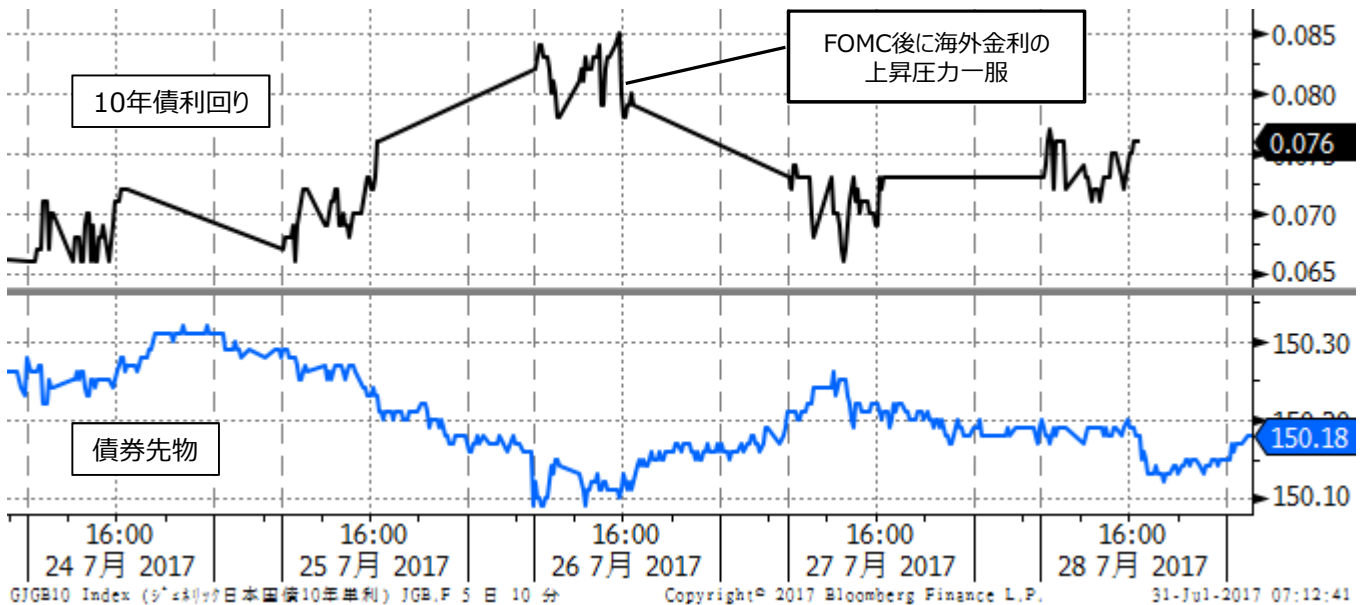
今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
今村仁	109.00 - 114.00	市場はネガティブサイドの材料に敏感になりつつあり、本日以降の米経済指標次第では110円割れの可能性も。
川合隆行	109.00 - 112.50	米利上げ期待の後退や、米税制改革の鈍化懸念などドル売り要因あるが、週末の雇用統計までは方向感に乏しい展開か。

2. 円金利相場概況

今週の長期金利は低下推移か。10年債入札（1日）も無難な結果を予想。

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



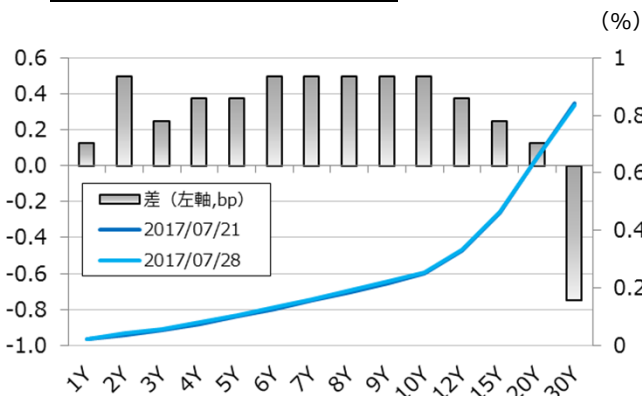
(出所) Bloomberg

コメント

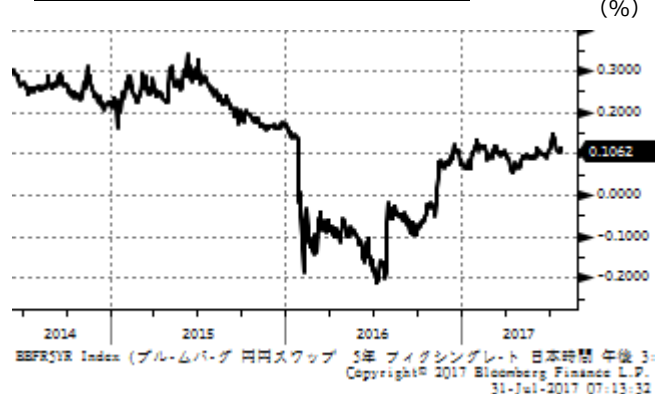
先週の長期金利（10年）は一時0.08%半ば迄上昇したものの、週を通じて0.07%を挟んで安定的に推移した。週初、日銀が長期ゾーンの買入れオペを今年初めて減額したがマーケットへの影響は限定的だった。週央にかけ、欧米の長期金利が大幅上昇したことやFOMCの結果発表を控え、長期金利は一時0.08%半ばまで上昇。FOMC後には海外金利の上昇圧力が一服、さらに日銀の買入れオペも金利低下圧力となり、結果0.076%で週越。40年債入札（25日）、2年債入札（27日）は順調な結果となった。今週の長期金利は低下が予想されている。前週末の米GDPが予想を下回ったこと（結果：2.6%、予想：2.7%）や北朝鮮のミサイル発射を受けたリスク回避の動きから、金利上昇が抑制されていることが背景。10年債入札（1日）は無難に消化されると見られている。

(市場営業部/山添)

金利スワップ変化（1週間）



5年円金利スワップ推移（2年間）



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
後藤賢太郎	0.04% - 0.09%	週初に8月の日銀オペ運営方針の公表を跨ぐものの需給環境に大きな変化は見込み難くレンジ範囲内での推移は継続。
小野口裕美子	0.03% - 0.09%	国内政治の混乱や北朝鮮リスクあるも日銀YCCによりレンジ推移継続と予想。

3. 今週のトピックス

IMMポジション（投機筋）から見る為替相場見通し

ユーロ買い米ドル売りが加速。ユーロロングポジションが積み上がり、ユーロドルが上昇。

IMMポジションとは

IMMポジションとは、米商品先物取引委員会（CFTC）が通貨毎の建玉明細を集計し、当該週の金曜日の取引終了後にHP上で公表しているものである。建玉明細の大口玉は報告義務があり、投機玉と商業玉に分かれ、市場は特に投機玉の建玉明細に注目する。

<ポイント>

ネットポジションがロングかショートかニュートラルかにより、投機筋の相場観が強気か弱気かニュートラルか推測できる。

直近の円、ユーロのポジション動向

6月のFOMCで利上げを実施し、イエレン議長が年内のバランスシート縮小開始へ意欲を見せたことから、円ショートにポジションを傾ける動きが顕著に見られた。一方、米ドル円相場は115円を上抜けできず、足元では110円台まで下落している（図1）。仏大統領選以降、ユーロ米ドルポジションはユーロロングへと転じ、6月にドラギECB総裁がテーパリングを示唆したことから、独国債利回りが急騰。ユーロ買い米ドル売りが加速し、足元のユーロ米ドル相場は1.17台まで上昇している（図2）。米ドルインデックスは米大統領選以降、節目となる100台乗せを示現したものの、足元ではユーロ買いに押されるかたちで95割れの水準まで下落している（図3）。

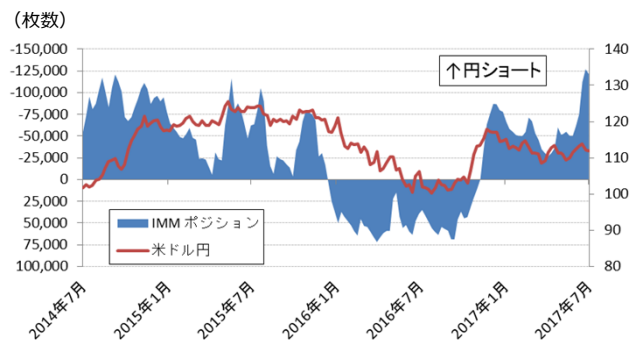
焦点は米国のインフレ動向へ

再び米国経済指標に市場の注目が集まっている。6月FOMCで今年2回目の利上げを実施したFRBだが、9月バランスシート縮小開始、12月追加利上げへの期待は足元では剥落しつつある。米労働市場は引き続き強い状態にあるものの、インフレ指標が弱いことが要因。インフレ指標が弱いうちはFRBは積極的な引締めには動き難いと市場は見ている。

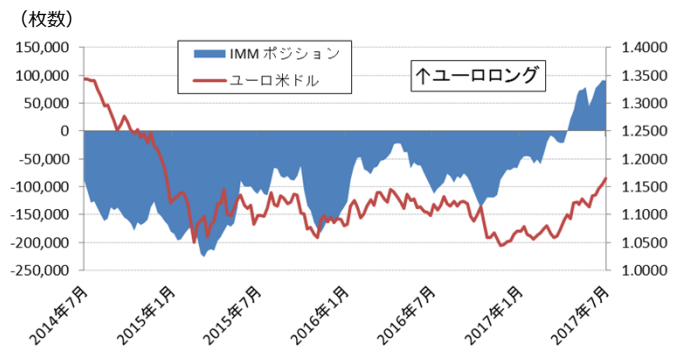
今週末に米雇用統計が発表されるが、NFPよりも平均時給に注目が集まるだろう。平均時給が弱い結果となれば、米ドル売りのトレンドは変わらず、ユーロドルは1.2を目指す展開となり、米ドル円は110円割れをトライする可能性が高い。

（市場営業部/浅川）

【図1】米ドル円（過去3年間）



【図2】ユーロ米ドル（過去3年間）



【図3】米ドルインデックス（過去3年間）



（出所 CFTC, Bloomberg）

ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会